

本校インターアクト部の途上国支援活動に関する記事が掲載されました。

バッグ収益で途上国支援

宮崎市の宮崎学園高インターアクト部(伊東望顧問、25人)は、アフリカ南東部・マラウイ共和国の女性グループが作ったバッグを販売し、その収益金で布ナプキンを作る活動を始めた。完成品

宮崎学園高 インターアクト部

は同国北部・バンダウエにある女子校に贈る予定。活動を継続させ、将来的には現地住民に布ナプキンの作り方を覚えてもらって普及させ、同国の保健衛生概念の向上につなげたい考え。



バッグ販売の収益金で布ナプキン作りを始めた宮崎学園高インターアクト部の部員

マラウイに布ナプキンを

同部では、2年前から世界の貧困について勉強会を開始。伊東顧問が2016年8月に国際協力機構(JICA)の教師海外研修で訪れた同国の状況も学んだ。同国は後発開発途上国を休む人も多いなどの実情を知った。現地の一家庭は貧困のために生理用品の購入が難しく、ナプキンの代わりには葉っぱや新聞、泥をうと考えた。製作費を稼ぐ

ため、同国の伝統的な衣装に用いられる布「チテンジ」を使ったバッグ販売を計画した。青年海外協力隊員として現地で活動する日本人女性の協力を得て、女性グループに製作を依頼。50個を輸入し、マラウイと同校の頭文字「M」を部員が刺しゅうし、3月に同市であった街市で販売。収益金で布ナプキンの製作を始めた。隊員を通じて現地に送る。部長の3年山下純乃さん(17)は「趣旨に賛同する市民にバッグを購入してもらい、まずは50個を目標に現地の学校へ送りたい」と意気込む。2年の桐山遥さん(16)は「使用の感想を聞いた上で最良の形を考え、現地で普及できれば」と話す。バッグは同校の文化祭などで販売する予定。問い合わせは同校☎0985(23)5318。(竹村麻実)